

会議録

件名	第 23 回軽井沢未来構想会議【全体会議】
日時	平成 26 年 10 月 14 日（火） 16:40～17:50
場所	軽井沢町役場

事務局 (udc) :

お待たせを致しました。只今から未来構想会議を始めさせていただきます。皆様方には2年度に渡り、有難うございました。本日でいよいよ最終となります。皆様から頂いた意見をまとめまして、軽井沢グランドデザインという形にしていきたいと思います。これについてご説明をさせていただきます。ご議論を頂ければと思います。

それでは、ここからは中村委員長に進行をお願いします。宜しくお願い致します。



中村委員長:挨拶

皆様、こんにちは。今年度の未来構想会議は随時東京で出席できる方をお招きして何回か開催しました。ほぼ全員で集まる事は久しぶりでございます。本日は進士先生のご都合が悪くご欠席ですが、ほぼ全員揃っての会議を開催したいと思います。10月6日に事務局を中心とした作業グループで検討した内容を確認して頂きました。その時に出た意見を入れ込んだ最新のグランドデザインの内容が出てきております。それを点検して頂きたい事が一つございます。それからイマイさんをお願いをしておりました、100年未来デザインの絵がほぼ概成のものが出て参りましたので、それについてのご意見も頂きたいという事でございます。私は6日の会議に出席しておりませんので、6日の会議の行政側からの意見がどの様に反映しているかに関して、横島さんからリードして頂いた方が良いかと思いますが如何でしょうか。横島さん、よろしくお願い致します。

横島参与:

中村先生はご出席ではありませんでしたが、6日は、町と事務局とで特にエリアデザインの未完成だった部分をどう今日までに詰めていくのかも含めて議論しました。今日が皆様にお示しする最後の機会ですので、そこまでに何とかイメージしたものを間に合わせて頂いたものが、今日お手元にあります資料となります。資料の5頁になりますが、5つのエリアデザインは、各エリアで模型写真1点、スケッチ3枚を1セットとして統一し、まとめています。模型の精度とスケッチの温かみが上手くマッチングする様な手法に統一して頂きました。まだ着色がないスケッチもございますが、ほぼお願いしたものが出来上がってきたのではないかと考えています。町側からの強い要望がここには込められています。提案の一つの参考書、アイデアではありますが、エリアデザイン5箇所につきましては、直ちに着手する事業も含めて、現実味を帯びた夢物語という難しい位置関係にあるものです。町側としては、直ぐに着手できるものは、来年度以降からの着手も考えている様です。それになかな様な具体性と将来性(あ

じわい)を同時にお願いするという難しい問題に取り組んでいただきました。上手く出来あがったのではないかと言う事が、本日の新しい進展です。その他に幾つか成果の完成に近づいた資料も出てきております。イマイさんの軽井沢グランドデザイン画、冊子の手法、冊子だけでは分からないという方のために解説版を用意しています。これは皆様に1度お示しした内容を補充完備したものです。それから、今日はまで出ておりませんが、中村先生の委員長総括資料が別途付きます。さらに各先生方の出して頂いた発表資料のデータを付属資料として、それにつけ加えるという手法、更に、報告書の中に出てくる難解な言葉や分かり難い言い回しについて、用語解説という形でまとめております。これは二井先生の方にお願ひ致しました。この様な形で整って参ったものが、本日の資料となっております。主には冊子が最終成果となります。町のスケジュールとしましては、11月27日の町の全員議会で町長が概略を説明するという議員説明、12月12日の町民に成果を報告する町民説明会を行います。この2つの説明会を経て、公表という段階を踏みます。お願いしているものは年内に完成して納めて頂く事になりますが、最終的な関連資料や委員長がかかっている膨大な概説書は、来年の3月までになります。少なくとも、この2点につきましては、年内に成果物が納められる段取りとなりました。11月4日が最終入稿となりますため、本日が最終確認の場となります。手直しが効かない部分もあり、大変心苦しい所もございますが、最小限の手直しはお聞きする事でご意見を頂きたいと思っています。これが本日の大きな議題となります。修文については可能ですが、大きな流れについては修正ができない事をご承知して頂きたいと思ひます。全体会議の他に、各先生と個別協議をさせて頂きました。そのご意見については、最大限活かしているつもりでありますし、逆に膨らませたり、切ったりしている部分もございます。その辺りの長短はご承知おきを頂いた上で、最終的なご検討いただきたいと思ひます。可能でしたら、今日の議論を経て、後の修文、修正については委員長ご一任をご了解頂ければ、事務局としても町としても幸いです。

中村委員長：

有難うございました。横島委員からご説明があった通りですが、今日の主な議題は、補助冊子と呼ばれるグランドデザインの要約版の内容でございます。本報告書はいわばテクニカルレポートの様な性格になるかと思ひますが、年度末に出ます。その中には各委員会で出てきた議事録等、先生方から頂いたプレゼンテーションのメモ等も提示する予定です。最終章では私の委員長総括も入る事になります。この要約版は町民用であります。これだけが1万五千部用意し、全戸配布する予定です。事実上の町民に対するメッセージの最終成果となります。内容は非常に重要なものでございます。10月6日の資料は皆様にもお送りしておりますが、そこから大幅な修正をしたものが今日の資料となります。この最終委員会で精査して頂き、その内容については修正等を行い22日にもう1度、町を含めて最終確認を行うスケジュールとなっております。本日頂いた意見を全て盛り込めるか自信はありませんが、なるべく反映させていきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

補助冊子の表紙にイマイさんのグランドデザイン画が入ります。冊子の最終頁のポケットに解説版が入るようになっております。体裁については、この方向でいきたいと思ひますが、内容についてご意見を頂く事になります。イマイさんの画は始まる前にご覧になって頂いたかと思ひますが、構図は決定しております。

それでは、イマイさんに画のご説明を頂きたいと思ひます。

軽井沢グランドデザインのデザイン画について（イマイカツミ氏）

イマイカツミ氏：

北海道富良野市から参りました今井克と申します。今回は非常に大きな仕事をいただいて、とても光栄に思っております。感謝しております。こっちに参ったのが先月の29日で、制作をし始めたのが30日からです。2週間少し滞在させて頂き、大きなやりがいを感じながら、画を制作させて頂きました。8月下旬に1度、軽井沢に参り町長さんをはじめ皆様にご挨拶をさせて頂きました。その時に大まかな下書きをお持ちしました。軽井沢に参ってからは最初の下書きから2度見て頂いて、内容についてご指示頂いた内容を反映したものが本日の画となります。



ベースは吉田初三郎の絵師が80年前に描いた軽井沢鳥瞰図に倣っています。当時の初三郎の画にはなかった範囲や表現がされていない部分を追加しております。初三郎は旧軽井沢をメインとして描かれているのですが、中軽井沢を中心とした構図に大きく変更しております。軽井沢町を散策したり、軽井沢町が出している観光マップや地図を参考にしながら、初三郎の画と合体させております。初三郎の鳥瞰図が非常に優れたものだと思います。地形ですとか、細かい道等が非常に精密に描かれています。黄色に対する青、緑に対する赤の捕色を使用しており、お互いが補いつつ一番目立つ形で配置されております。この様な大きな部分は踏襲しております。初三郎の画をもとに描いております。多少、今とは雰囲気異なる部分も多いかと思いますが、自分の想像を活かすところも含めつつ、初三郎への敬意も大事にしながら描いております。8割は終わった段階ですが、後残り2割、着陸段階には来ていると思いますが、気を抜かないように仕上げたいと思っています。

中村委員長：

有難うございました。今から絵を修正する注文は難しいかと思いますが、ご感想等がございましたら、どうぞお願いします。

イマイカツミ氏：

先程のお話しに出ていた新幹線の書き直しの事ですが、水彩画は色を入れてしまうと、白地（白色）に戻すことだけは出来ません。線路にもう1度、白の新幹線を入れ直す事は至難の業です。新幹線の形は100年後どうなっているか分かりませんので、馴染みやすさを考慮し、現在走っている一番新しい形を踏襲しています。

中村委員長：

一番重要になる要素は、ベースとなる地形、山や水の流れだと思います。地形がはっきり描かれていれば、一番重要な点はクリアできていると思います。川の流れ（水脈）をもう少し強く表現しても良いのではないかという印象を受けましたが、如何でしょうか。

イマイカツミ氏：

川を重視している事に関しては伺っておりました。ベースとなる地形や川が一番初めに塗り始めるため埋もれていますが、全ての川を載せています。水彩画の手順として遠いものや下（奥）にあるものから描きはじめ、上に書き重ねていきます。その方がより現実らしく描く事ができます。そのため、山の上に川を書き足してしまうと、山の上に川がのっている様な重なり方に見えてしまいます。地形の中で

も川を一番初めに塗り始めたため、描いてはいるのですが、下に沈んでしまっている事は確かです。

中村先生

承知しました。他にご意見はございますか。

浅野委員：

山の名前で「小浅間」、「千ヶ峰」等は入れなくても良いのでしょうか。

横島委員：

「小浅間山」は入っております。

イマイカツミ氏：

「浅間山」「離山」「愛宕山」は吉田初三郎の絵を踏襲し、赤短冊で表現しています。また、主要な川は青短冊で表現しており、その他は白短冊で描いております。現段階では、文字に筆が入っていないため、読みにくいと思いますが、代表的なものは入れています。

中村委員長：

吉田初三郎の絵より空の様相に変化が見られますが、意識してお書きになられたのでしょうか。

イマイカツミ氏：

空については、私が普段から描いている様に変化を持たせて意識的に描かせて頂きました。軽井沢町の方でご意見がございませんでしょうか。我々と地元の方では見る箇所が違うかと思えます。

軽井沢町（依田課長）：

LRTの新駅をもう少し目立たせる事は可能でしょうか。

イマイカツミ氏：

LRTを走らせている線が青色なので、新駅が目立たなくなっています。確かにそれは思う所はあります。

中村委員長：

イマイさんのサインは絵の中に入れて頂ければと思います。

イマイカツミ氏：

有難うございます。右下か左下に小さく入れさせていただきます。

横島委員：

先程町長とも話しましたが、離山のブルートーンを下げる事が難しいのであれば、浅間山にブルーのトーンをのせる事は出来ないのでしょうか。大きい浅間山の黄色と小さい離山の青色を見ると、離山の青の方が強くなっている気がしますが、逆で浅間山を強くして欲しい。浅間山の地母性を全体テーマとして謳っているだけに、何においても浅間山から全ての視線も思想も発するという原点に立ちかえる様な色合いとして、もう一工夫して頂ければと思います。

イマイカツミ氏：

出来ない事はないですが、色を入れ直す事は怖いです。

中村委員長：

離山の様に青色で強調するのではなく、同色を使用して同じ感じで強調する事は出来ないのでしょうか。

事務局（二井先生）：

吉田初三郎は浅間山の輪郭を違う色で描いて表現しています。その様なやり方で少しは目立たせる事が出来るのではないのでしょうか。

イマイカツミ氏：

まだ仕上げの段階ではないのですが、輪郭線は強くなると思います。

中村委員長：

輪郭線が強くなれば、必ずしも青に拘る必要はないと思います。

イマイカツミ氏：

浅間山の頂上の所に少し藍を入れる事は出来ると思います。

事務局（小野寺）：

浅間山に藍を入れると、より沈んでしまう気がします。

イマイカツミ氏：

バランスをとる事が難しいと思います。吉田初三郎に寄せている所もありますので、藍を入れる事で絵のバランスがどうなるかは不安です。

事務局（小野寺）：

吉田初三郎の絵は、浅間山以外は青をベースとしています。そうする事によって補色である浅間山の黄色が浮かび上がらせる方法を選んでいきます。浅間山にも青色を入れると、違ったイメージになってしまうのではないかと思います。

イマイカツミ氏：

確かに離山と愛宕山の青は強くなってしまふのですが、浅間山は黄色と言うよりも金色のイメージで描きました。強調しなくても、雄大で高貴な感じで、後ろから見ているという様に思ってもらえると有難いです。水彩絵の具に金色があります。右端に名古屋城のしゃちほこに使用したのですが、はじめは浅間山にも金色を使用しようと思っていました。しかし、色がきつくなり過ぎる恐れがありましたし、きつくない事で逆に雄大さを表現できればと考えて描いています。

花里委員：

浅間山は父親のイメージを持っています。皆様の意見の通り、今の黄色の感じでは少し弱い感じがします。

中村委員長：

輪郭はこれから入れるのですよね。

イマイカツミ氏：

輪郭はこれから入れますが、それで色のバランスが変わる事はありません。

事務局（二井先生）：

吉田初三郎の絵を見ると、輪郭は黄色ではなく、茶色で描かれています。花里先生がおっしゃる様にもう少し強いイメージを付けるのであれば、輪郭を強い線で描く事でイメージも変わってくるのではないのでしょうか。

イマイカツミ氏：

石尊山の様に頂上を青くしていますが、その様に浅間山にも青を入れる事もできます。しかし、火山ですのでイメージ合うかどうかは難しい。ご判断はお任せしたいと思います。

中村委員長：

皆様のご主旨は浅間山の持っている神核化された存在感をもう一筆お願いしたいとの事だと思います。どの様に表現するかについては、イマイさんにお任せしたいと思います。存在感が出れば良いと思っています。表現については、画家の権限の問題だと思っています。

イマイカツミ氏：

仕上げの段階で、浅間山が浮き立つ様にはなりますが、色については、現段階のままがベースになります。浅間山に青を入れるかどうかについては、ご指示して頂けるとありがたいと思います。

横島委員：

一つの考え方として、煙を強くする事で象徴性は出す事もできるかと思います。しかし、火山に対する恐怖感が煽られている現状では、別の問題として、軽井沢が危険な象徴になってしまう可能性があります。その様な意味からみて、弱く煙を描かれている事については配慮を感じますが、煙を強調する事も方法論としてあると思います。ナイーブな問題でもありますので難しい所もあると思います。

中村委員長：

決めなければいけない事は、象徴性を強めるために、浅間山に青を入れるかどうかという事ですね。私は、シルエットが強調されれば良いと感じているのですが、皆さん如何でしょうか。

横島委員：

現在、雪形のように白で残している部分があるかと思います。素人感覚ですが、そこに青を入れる事は考えられないのでしょうか。

森山委員：

黄色と青色をひとつの山に入れる事は、あり得ないと思います。

横島委員：

それでは、どうしてもという事であれば、金色の色合いを強くする事の方があり得るのでしょうか。現在、青色を入れる案と黄色を強調する案と輪郭線を描く案と3つの案が出ていますが、画家としてはどれを選択しようとお考えですか。

イマイカツミ氏：

輪郭線で強調する事、象徴性を出せると考えています。

中村委員長：

私も青色を入れなくても、輪郭線で充分だと思っています。

森山委員：

水彩の金色は、印刷物では特色をしない限り出ません。原画としてはありますが、仕上がりが印刷物とであるならば黄色にしか見えません。

横島委員：

それでは、やはり輪郭線を強調する事で象徴性を出す事が妥当ですね。輪郭線が濃い黄色で描くのでしょうか。

イマイカツミ氏：

普段から最終仕上げに使用しています水彩色鉛筆の紺色で、縁を描こうと考えています。吉田初三郎の輪郭線の色とは異なりますが、強調させたい部分は絵のバランスを見ながら色を濃くするなど引き立つと思います。

事務局（二井先生）：

LRTの青色が山裾を通過して長野方面まで伸びていますが、縁の色と混同しないでしょうか。

イマイカツミ氏：

LRTの青色には輪郭線をとらないと思います。現段階ではどの部分にと言えないのですが、絵のバランスを見ながら隈取をしていきたいと思っています。奥にあるものは現状のまま、山の稜線は隈取りによ

って前に出てくる感じにしたいと思います。

横島委員：

現在のマウンテントップのイメージが、弱さの発路になっているのかなと思います。稜線がくっきりすれば良いと思います。

イマイカツミ氏：

今回のご意見で想いが伝わりました。ご意見を踏まえて仕上げていきたいと思っています。

中村委員長：

よろしくお願い致します。この絵は、お手元資料（グランドデザイン冊子（案））の4頁目にも使われる事になります。

それでは、絵についての議論は終わりにし、次に進めさせて頂きたいと思っています。他にお気づきの点がございましたら、最後に意見を聞きたいと思っています。

軽井沢グランドデザイン冊子について

中村委員長：

本日は、グランドデザイン冊子を1頁毎に確認していきたいと思っています。事実上、我々が意見する機会是最後だと思って頂ければと思います。先程も申し上げましたが、6日に提示させて頂いた案から議論した結果を本日提示しています。

1頁目から始めたいと思います。

軽井沢町（依田課長）：

軽井沢グランドデザインの英語表記がグランドデザインだけ縦表記になっているのですが、これはデザインでしょうか。

事務局（小野寺）：

横にすると勢いが止まった感じになるので縦表記のデザインとしています。

森山委員：

「軽井沢 22 世紀へのはばたき」というタイトルが他にも出てくるのですが、表紙は「軽井沢 22 世紀のはばたき」となっています。また、解説版の方は「軽井沢、22 世紀へのはばたき」と、句読点（、）が入っています。結果、3種類出てきてしまっていますので、統一した方が良いと思います。

句読点はどちらでも構いませんが、「へ」は入れた方が良いと思います。

中村委員長：

横島先生が、句読点を入れたタイトルを考えてくれたのですが、如何しますか。

横島委員：

特に拘っていませんので、決めて頂ければと思います。

事務局（小野寺）：

半マス空けるという手もあります。

中村委員長：

その方がスマートですね。それでは、半マスあけて「軽井沢 22 世紀へのはばたき」としたいと思います。



森山委員：

2 頁目の「軽井沢 22 世紀へのはばたき」の「への」辺りの行間（幅）もおかしい感じがします。

事務局（小野寺）：

文字（フォント）の問題だと思いますので、カーニングで調整します。

森山委員：

カーニングは必ず行って下さい。

花里委員：

1 頁の「軽井沢 22 世紀へのはばたき」に半マス空けてしまうと、その下の「軽井沢 100 年グランドデザイン」もバランスとして、空けなければならなくなるのではないのでしょうか。

森山委員：

どちらでも構いませんが、「軽井沢 22 世紀へのはばたき」は全体タイトルなので、下と扱いが違うので問題ないと思います。

事務局（二井先生）：

並びで見ますと、半マス空いている箇所が抜けている様に見えてしまう可能性がありますので、特に拘りがなければ、半マス空けずにいった方が良いと思います。後半には縦書きもできますので、素直な方が良いと思います。

中村委員長：

それでは、半マス空ける事はやめる方向で統一したいと思います。

2 頁は如何でしょうか。左側の年表で『「軽井沢グランドデザイン」作成』と記載されています 2014 年以降については、未来の計画についてのプロジェクトを入れる必要はないのでしょうか。例えば「発地市庭（直売所）」は、2015 年オープンが決定していると思いますが、如何でしょうか。長期的なビジョンではあるが、既に歩み出している認識の方が良いと思います。

藤巻委員：

「発地市庭」はエリアデザインに出ておりますが、他に建設している建物もございます。「発地市庭」だけが年表に出てきますと、他のものとの違いを説明する事が難しい。

中村委員長：

それでは、本文に出てくる政策や細かなプロジェクト等は年表の中には入れなくても違和感はないという事として、2014 年以降は、現状の書き方で良いでしょうか。

藤巻委員：

入れるとなると厳選が難しいので、今のままで良いと思います。

中村委員長：

分かりました。右側は藤巻町長のお言葉と、一番下には軽井沢町グランドデザイン作成に伴い募集された小学生の絵画が入ります。小学生の絵画が入る事は大変面白くて良いと思います。地方都市で未来の絵を描いてもらおうと、大抵は高層ビル等の近未来的な絵が出てくるのですが、軽井沢町の小学生は農村的なものを描かれており、その違いが大変面白く感じました。

花里委員：

1945 年に第二次世界大戦が終わった事は、この町にとって歴史的に大事な出来事だと思うのですが、年表には入れなくても良いのでしょうか。スイス公使館等が移設された事にも関わると思います。

中村委員長：

1945年の終戦の事を年表に記載する事ですが、如何でしょうか。戦前と戦後を分ける歴史的な画期です、入れても良いかと思えます。

横島委員：

この年表には、軽井沢固有の現象のみを拾い上げているので、それを入れると他も入れなくてはいけなくなる事が心配です。タイトルである「軽井沢これまでとこれから」に対応させるのであれば、入れる事に違和感があります。

中村委員長：

戦争の際にスイスの外交団が来た事についての記載は如何でしょうか。

横島委員：

その事は、真実であるかどうか明らかになっていません。外務省の公式記録では、ポツダム宣言とスイス公使館は関係ないとされています。常識の事柄として捉えて頂く事はできないでしょうか。

中村委員長：

その様な意見もございしますが、如何でしょうか。

花里委員：

しかし、申し訳ないと思えますが、敢えて言わせて頂くと、1945年は軽井沢にとっても重要な出来事だったと思えますが、如何でしょうか。

横島委員：

省いたから重要ではないという事ではありません。軽井沢の歴史から見て重要ではないから拒否をしている訳ではなく、この年表の位置づけが軽井沢の現象をピックアップしている特殊な年表のため、省略の範囲として読み取れるものは読み取って頂く方が洒落ているのではないかと思います。

花里委員：

アレクサンダー・クロフト・ショーが1886年にやってきた時に初めて外国の方が軽井沢に入ってきており、それと入れ替わって入ってきた時期が1945年前後になります。その時には1000人とも3000人とも言われている人が来ています。

中村委員長：

開拓団の事でしょうか。

花里委員：

外交団が疎開していた時です。

中村委員長：

疎開の時ですね。終戦という言葉ではなく、「外交団の疎開」等として軽井沢の事象として扱っては如何でしょうか。はっきりとした年は書けないのですが、戦時中になりますので、1944年頃ですかね。

書くとするならば、「外交団の疎開開始」とかでしょうか。

花里委員：

「外国人の疎開が多くなる」とか「疎開する外国人が増える」でよろしいかと思います。

中村委員長：

軽井沢町にとって大きな歴史になると思えますので、記載する方向にしたいと思えます。皆さん、その方向でよろしいでしょうか。

藤巻委員：

「13の大使館、公使館が設置された」という事にもなるのでしょうか。これに関しても年を定められないと思います。

花里委員：

1944年には、13ヶ国の大公使館が設置されていました。

中村委員長：

その事は、疎開とは関係ないのでしょうか。

花里委員：

疎開して公使館や大使館が置かれたので、同じ事です。

中村委員長：

それでは、表現としては「13ヶ国の大公使館が設置された」の方が良いのでしょうか。

花里委員：

その方が良いと思います。

中村委員長：

年度は1944年か1943年か明確ではないですが、表現の処理について任せて頂ければと思います。

中村委員長：

藤巻町長の言葉についてはご確認頂き、修正等がございましたら事務局にお伝え下さい。

事務局（二井先生）：

藤巻町長のサインは、手書きサインをスキャンして画像で載せた方が良いのではないのでしょうか。

中村委員長：

その方が良いですね。事務局は藤巻町長のサイン画像を頂いて下さい。

軽井沢町（副町長）：

藤巻町長の言葉の下に掲載している小学生の絵画については、提供してくれた方の名前を入れた方が良いでしょう。それとも入れない方が良いでしょうか。

事務局（二井先生）：

冊子最終頁（資料10頁）のクレジット掲載部に併せて掲載する事でどうでしょうか。

森山委員：

その方法が良いと思います。小学生の絵画でも著作権がありますので、名前は掲載した方が良いでしょう。

藤巻委員：

「小学生部」は「小学生の部」と併せて修正して下さい。

中村委員長：

それでは、その方向で処理させて頂きます。

中村委員長：

それでは、次の3頁目に移ります。3頁目は横島先生からのご依頼で私が執筆したものとなります。全体のまとめとして「起承」となるものをなるべく完結に整理しております。何度か読み直し、「風土フォーラム」の機能については、文章のみでは説明しきれないので、具体的な機能の例を提示しています。私の一存で例を取り上げておりますので、違和感があれば修正いたします。全体を見てご意見をお願いいたします。

浅野委員：

「22 世紀風土フォーラム」の説明文の 1 行目に「食文化創成サロンを中心に」と記載されていますが、「食文化創成サロンが出発点に」という様に、これから膨らませていく表現とした方が良いと思います。そう記載しなければ「食文化創成サロン」が既に中心なのかと勘違いされてしまう恐れがあるかと思えます。

中村委員長：

この文章は「出発点に」という意味も持っておりますので、修正したいと思います。スタートした後は、やはり「食文化」が中心でないと、人が集まってこないだろうという意味も込めておりました。しかし、「出発点」という言葉でも問題ございません。「出発点」が続けば「中心」になってくるものですので、その様に修正したいと思います。

藤巻委員：

概念図は、「食文化創成サロン」が中心となっておりますが、連動していなくても良いのでしょうか。

中村委員長：

この概念図はコンセプトの中心にあるという表現です。時間軸は表現できませんので、この様な形になっておりますが、どの様に作っていくのかを表現するには、やはり「食文化創成サロン」の様なものが出発点（中心）にあった方がやり易いと考えています。

それでは、この頁もこれで納めさせて頂きたいと思います。また、ご意見がございましたら、後程お願いいたします。

中村委員長：

それでは、次の 4 頁目に移ります。ここでは、「軽井沢 100 年グランドデザイン」を表現するイマイ氏の絵を中心に 20 個の「キャッチコピー（1 行コピー）」をその周辺に張り付けております。当初は、画面上にキャッチコピーを散りばめる案もありましたが、内容が混乱するため画面との 1 対 1 対応は止める事としました。画とコピーの対応関係は漠然となりますが、この様な形で進めていく方向です。

キャッチコピーのレタリングは「毛筆体」にして欲しいとの意見があったと思いますが、事務局としてどの様に処理をしていますか。

事務局（小野寺氏）：

難しい漢字を使用されているので「毛筆体」では、出なかった部分がありました。別フォントで入れ直す検討をしています。現段階よりもう少し「毛筆体」の方が良いかと考えています。

中村委員長：

現資料では普通の活字体となっておりますが、もう少し「毛筆体」になる予定です。

森山委員：

「毛筆体」フォント数が小さくなると大変読みにくくなります。現フォント数であれば、活字体でないと読みにくくなる可能性がありますので、良い選択して頂ければと思います。「毛筆体」にするのであれば、もう少し文字を大きくする必要あると思います。

事務局（小野寺氏）：

「毛筆体」でも様々な種類がありますので、読みやすさに気を付けて選択させて頂きます。

事務局（二井先生）：

難しければ、活字に戻す事も検討した方が良いと思います。

横島委員：

難しければ、活字とする方向で構いません。

藤巻委員：

画中に番号が落とされる事もないのでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

今回は、番号も落としません。

中村委員長：

やはり画の性質からしても、何かを載せてしまうと煩雑になってしまいますので、中央は画のみで表現する方向です。

森山委員：

横書きの4つの文章（タイトル）があるのですが、下2つの文章は同じで良いのでしょうか。折りたたまれた時の位置に違和感があります。4つ言葉があると、人は違う言葉が書いてあると思うものだと思います。

事務局（二井先生）：

仕上がりが見開きであれば、タイトルは左寄せにし、下の2つの右1つは削除した方が素直な表現かと思えます。

森山委員：

その方法が良いと思えます。

中村委員長：

それでは、その方向で修正お願いいたします。レタリングは黒ですが、少し色が合った方が良いでしょうか。

森山委員：

イマイ氏の画がカラーですので、文字は黒（墨）で良いと思えます。

中村委員長：

それでは、次に移ります。次からは、5つの戦略的な所見の画が出てくる極めて重要な箇所となりますので、よろしくをお願いいたします。10月9日に相当議論をして頂きましたので、それから修正したものが今回提示されています。着色されていないスケッチもありますが、現案が完成形として考えてよろしいでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

スケッチに関しましては、現案のアングルが最終形となります。低いアングルのスケッチを入れる事は5地区とも統一しています。しかし、低いアングルだけでは、表現が難しい所もありますので、鳥瞰のアングルも入れておりますが、旧軽井沢に関しては、基本的に低いアングルとしています。

勿論、色が入っていないスケッチは、これから着色いたします。

旧軽井沢地区（資料5頁）の「①軽井沢銀座通りの刷新」の最終形は、道路中央に浅いせせらぎが流れ、それを取こんだ並木を入れた画として表現しました。

中村委員長：

左側の模型図にはキャプションは入れない方向でしょうか。

事務局（小野寺氏）：

現在は、全ての模型図でキャプションは入れておりません。

中村委員長：

模型図の左側にタイトル「旧軽井沢地区における歴史と伝統のデザイン」と記載されているので、このタイトルがキャプションの意味を持つと考えて良いと言う事でしょうか。

事務局（小野寺氏）：

基本的には、上段の「美しい村」への未来にむけて」の小見出しとその下段からの説明文が模型図（全体図）に対応している形で考えていますので、模型図（全体図）のキャプションはあえて入れない方向で考えています。

中村委員長：

分かりました。模型図には地名や建物名を入れております。この模型図に記載すべきもので抜けているものがあれば、ご意見をお願いします。

事務局（小野寺氏）：

現段階で矢印の方向や位置が間違っているものもありますが、それに関しては修正します。

花里委員：

①、②は現況からの変化が見てとれるのですが、③の別荘の保全では現況からの変化が見られないのですが、変化なしの画で良いのでしょうか。

軽井沢町（依田課長）：

③の別荘については、50年後も100年後も保存する方向とする町の姿勢を表しています。今のままで残すべきものは守っていくメッセージとして入れている事でご理解頂ければと思います。

事務局（小野寺氏）：

③は模型図に示している「神宮寺」の右上か左上あたりに番号を表記する予定です。

藤巻委員：

③の言葉ですが、「別荘」ではなく「別荘群」の方が良いかと思えます。

安島委員：

③の保全すべき画についてですが、保存すべき別荘は、初めに外国人が来た頃に建設された「軽井沢バンガロー」といわれる、ベランダのある形態や、あめりか屋が建築した別荘になるかと思えます。その様な別荘を画の対象にした方が良いのではないのでしょうか。ベランダに土管煙突がある様な別荘は「軽井沢バンガロー形式」と呼ばれています。

藤巻委員：

その方が良いかと思えます。

中村委員長：

現在のスケッチ内の別荘はモダンすぎるという事ですね。それでは、「軽井沢バンガロー形式」が分かる参考となる画像等を貰って、事務局でもう一度検討して下さい。

事務局（二井先生）：

画の問題もありますが、単独の建築を保全する事に重きを置くのか、それとも別荘地の風景を保全する事に重きを置くのかは重要となります。後者であるならば、タイトルは「別荘地の保全」とすべきだと思います。

画に関しては、著名な別荘をモデルにすると、著名な別荘だけを保全するイメージが伝わる恐れがある側面もあります。ある一定の質を担保しているものも保全する方向を示すのか、どちらを提示するかは検討が必要かと思えます。

軽井沢町（依田課長）：

別荘地の自然環境までを含めた形の保全を考えています。

事務局（小野寺氏）：

③のスケッチは、実際にある場所ではなく、幾つかの参考となる写真を合成したイメージ図として海書しています。この段階では、あまり目立たない別荘を選んだという経緯があります。しかし、ご指摘頂いた通り、少し新しい形態すぎると思いますので、壁を板張りにする等で表情を修正しようと考えています。

安島委員：

建物の中に組み込まれているテラスを表現して欲しいです。

事務局（小野寺氏）：

別荘の形式をお決め頂ければ、その様に修正したいと思います。

安島委員：

あめりか屋の別荘の良いのですが、やはり「軽井沢バンガロー形式」が良いと思います。

藤巻委員：

私も「軽井沢バンガロー形式」が良いと思います。

事務局（小野寺氏）：

それでは、「軽井沢バンガロー形式」として参考になる写真を頂ければと思います。

横島委員：

「軽井沢バンガロー形式」は2階建が主流でしょうか。現在は、木造の平屋建ての別荘の雰囲気ですケッチを描いて頂いています。「軽井沢バンガロー形式」に異論はないのですが、平屋建てにした方がメインのデザイン画との整合性を考えても良いのではないのでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

確かに、この画で2階建の別荘に変更すると森の雰囲気が損なわれる可能性があります。その辺りは検討させていただきます。

事務局（二井先生）：

言葉としては、「別荘の保全」から「別荘地の保全」への変更で問題ないでしょうか。

軽井沢町（依田課長）：

本当は、この画の様に道路から近い場所に建物は建っていません。手前の建物は無い方が良いです。

森山委員：

私は編集者でもあるので、標記、禁則、組版等が気になります。句読点が文章の左頭にくる事はゆるされない事です。他にインデントも言いますが、段落を変えた時に1字下げる、下げない、2字下げるという事が、この2つの印刷物の中で不要に混在しています。現段階では、禁則という概念がないので、後ろの行が全く揃っていません。印刷物として残るものですので、形式には十分に気を付けて製作して欲しいと思っています。資料内に注記しましたので、後でお渡しいたします。

中村委員長：

ご指摘の通り、編集については十分気を付けてまいります。

スケッチの方に戻り、一つお願いがございます。①軽井沢銀座通りですが、以前よりも画角も修正され、格段に良くなっておりますが、水の流れの存在感が少し弱いと感じます。着色する際に際立たせて下さい。

事務局（小野寺氏）：

承知しました。着色の際に気を付けます。

中村委員長：

出来れば、この銀座通りにできた小広場に名前を付けて表現したかったのですが、現段階では難しい様ですので、完成した際には、町民の皆さんと良い名前を付けて頂きたいと思います。

藤巻委員：

「別荘地の保全」の内の文章ですが、「100年の年月をかけて築いた」とありますが、100年という記載でよろしいでしょうか。

森山委員：

130年と記載されている資料もある様です。

藤巻委員：

正確には、別荘地ができて今年で128年になります。

事務局（小野寺氏）：

それでは、「100年」から「100年以上の」という表現では如何でしょうか。

藤巻委員：

または、「1世紀あまり」はどうでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

それでは、「100年」から「1世紀あまり」という表現に変更します。

中村委員長：

模型図に表現していますが、現在公園になっている場所に公民館を移設しております。これに関しては問題ないでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

新規の公園を活発化させる意味を込めて、諏訪神社裏にあった施設は取り払い、こちらに移しています。移築なのか、新設なのかの表現は曖昧な感じにはなっています。

中村委員長：

この場所には名前を表記しなくても良いでしょうか。22日まで決定して頂ければと思います。

②の「賑わいを創出する聖祝祭プラザ」のタイトルですが、是非「聖祝祭プラザ」という名前を入れたいと考えているのですが、これは如何でしょうか。現段階では祝祭が少ない場所になっているとの事ですが、賑わいある空間となって欲しいと思っています。

横島委員：

「聖祝祭」の「聖」ですが、キリスト教に限定された言葉となっている事が気になります。「祝祭プラザ」の方が良いかと思います。

中村委員長：

それでは、「聖祝祭プラザ」から「祝祭プラザ」に修正したいと思います。

安島委員：

この地区は、江戸時代の中山道も含めて歴史的な蓄積がある場所ですので、タイトルの通り歴史や伝統のデザインをもう少し表現できればと良いと思います。初めてみた人にはその歴史性が伝わり難いと思います。元々の問題もありますが、あまりユニオンチャーチが教会らしくない表現となっています。嘘になってしまっはいけないのですが、教会らしさや歴史性を強調して表現できないでしょうか。加

えて、模型図の中に、この場所が「旧中山道」の宿場町であった事や、「ショー記念礼拝堂」等の教会名を記載する等、あまり説明的な記載は難しいと思いますが、歴史的な蓄積がある事を表現できたら良いと感じました。

事務局（小野寺氏）：

①の文章内に「旧中山道であった銀座通り」等に入れ込む事も考えられると思います。

中村委員長：

図で表現する事は画角上、難しいと思いますが、模型図内に文字を記載する事は可能だと思います。説明文中に「旧中山道」の街並みの継承に関する事を入れる事ができればと思います。

事務局（二井先生）：

模型図上に記載するとなれば、例えば「旧軽井沢銀座通り（旧中山道）」と記載する事も可能かと思えます。

藤巻委員：

我々は「銀座通り」という名称を一般的に使用していますが、「銀座」という表現は如何でしょうか。

中村委員長：

それでは「軽井沢銀座」ではなく「旧中山道通り」ではどうでしょうか。地元の方には違和感が残るでしょうか。

藤巻委員：

地元の方には、「銀座」という名前を一般的に使用しています。

軽井沢町（副町長）：

「旧軽銀座」が良いと思います。

事務局（小野寺氏）：

「旧軽銀座（旧中山道）」では違和感がありますか。

軽井沢町（依田課長）：

旧中山道は軽井沢地区を横断しており、この地区で名前を記載すると全ての地区で記載する必要が出てくると思います。ここでは追分地区のみで全面的に謳いたいと考えています。模型図内には「旧中山道」という名称は入れず、説明文等で補足する方向でお願いします。

藤巻委員：

「銀座」という名前が入るのであれば、「旧軽銀座通り」でも構わないと思います。もう1つ「ショー記念礼拝堂」は模型図上に落として欲しいです。

中村委員長：

①「軽井沢銀座通りの刷新」の「刷新」という言葉もしっくり収まっていません。何か良い案がありましたら、ご意見頂ければと思います。

事務局（二井先生）：

「刷新」という言葉は、今までの旧軽銀座の全てを駄目だしされた様な印象も受けると思います。「リニューアル」もあるかと思えます。

中村委員長：

それでは、言葉に関しても、もう一度検討したいと思います。

中村委員長：

次は「新軽井沢地区」に進みたいと思います。この地区は、国際会議場やゲートミュージアムの新設等、思い切った提案をしています。ご意見をお願いします。

軽井沢町（依田課長）：

「中軽井沢」との街並みの違いを出して欲しいとの事で、②のスケッチの建物の屋根はもう少し明るいイメージが良いと前回意見させて頂いたのですが、どうでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

前は屋根の色を全てグレーで表現していたのですが、旧軽井沢よりモダンなイメージとして今回は赤みのある色を混ぜて表現しています。

軽井沢町（依田課長）：

まだ中軽井沢のイメージに近い感じがします。もう少し明るい感じでも良いと思いますので、検討をお願いします。

軽井沢町（副町長）：

模型図上のゲートミュージアムの芝生についても、緑である事をはっきりと表現できれば良いと思います。

事務局（小野寺氏）：

承知しました。修正する方向で検討します。

安島委員：

この地区は、音楽やアートがテーマであるかと思いますが、音楽や野外で楽しんでいる風景や姿を表現する事ができないでしょうか。既存の大賀ホールが孤立している気もしますし、それぞれの施設の関係性や繋がりが分かり難い気がします。大賀ホールだけでなく、駅前でも音楽を楽しんで人の姿があったりする絵があれば分かり易くなるのではないかと思います。わくわくする楽しさがもう少し表現できないかと感じました。

中村委員長：

例えば、右下に③矢ヶ崎公園の改修のスケッチがありますが、この中には既存大賀ホールの前に人が集えるボードデッキや栈橋を配置しています。可能であれば、この辺りにももう少し賑やかさ表現できればと思います。

事務局（小野寺氏）：

現在でもオープンカフェを描いているのですが、スケッチが小さくなりすぎて分からない状況にはなっています。

安島委員：

屋外でコンサートをする等の表現はできないでしょうか。

軽井沢町（依田課長）：

提案している事の楽しさを画の中に表現して欲しいという事は理解しておりますが、軽井沢では静穏の保持という条例があり、屋外でのコンサートは禁止されています。町で規制している事に関しては表現できない事をご理解頂ければと思います。

安島委員：

承知しました。屋外コンサートでなくても、芸術家の人を含め様々な人が集える音楽やアート、または食等の楽しさをもう少し表現して頂ければと思います。

藤巻委員：

国際会議場では、会議だけでなく音楽発表や練習等も出来るスペースもあります。大賀ホールと国際会議場は相互乗り入れ、連動させる事は可能だと思います。

軽井沢町（遠藤氏）：

この地区には、アイレベルのスケッチは入らないのでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

ここでは、駅と大賀ホールの結びつき、矢ヶ崎公園からの浅間山の眺望等、遠景で表現する提案が主になっているので、アイレベルのスケッチを入れる事が出来ていない状況です。

軽井沢町（依田課長）：

「国際会議場」の中には、食事ができる場所や音楽ホール等の様々な用途を意識した建物として提案しています。

中村委員長：

文章内で「新しい芸術・文化祭を提起したり日本の古典芸術との接点を探るなどして」と記載している通り、フェスティバルの感覚も提案として入れていいと思います。

横島委員：

この地区は、様々なテーマがあり、それに沿った具体的な提案も様々に入っています。新しい創りものの目玉としては、「ゲートミュージアム」なのですが、これに関しても十分に3様のスケッチの中に入り切れていない状況です。③のスケッチの中にもう少し賑やかな雰囲気が入る事に期待をする事以外、スペース的に既に限界だと考えています。

事務局（小野寺氏）：

時間的にも③のスケッチにもう少し賑わいを表現する事でしか対応できないかと思っています。

中村委員長：

それでは、少し小さすぎで表現が伝わらない可能性もありますが、点景を増やす事で対応する方向で進めて欲しいと思います。

事務局（二井先生）：

この大きさであれば、いくら書き込んでも絵として表現する事は難しいと思います。文章内で「浅間山を望みながら水辺の上で味わうコーヒー」と記載されており、コーヒーが限定されていますが、オープンカフェやレストランにする等、文章内でここでの使用を広くする事もあると思います。

事務局（小野寺氏）：

少なくとも、スケッチ手前部分の大賀ホール前のボードデッキ上にはオープンカフェを水辺に近づける等をして表現しようと考えています。

横島委員：

森山先生にご質問です。「②駅前通りの刷新」の部分でタイトルと文章が離れていますが、これは割り付け上、如何でしょうか。

事務局（小野寺氏）：

これは、タイトルの下に文章がきた方が良いと思います。

横島委員：

おっしゃる通りだと思います。タイトルの下に文章を持ってくるべきだと思います。

事務局（小野寺氏）：

修正します。

軽井沢町（副町長）：

左側の文章の最終行に「ゲートミュージアムを設置してはどうでしょう」と記載されていますが、ここでの文章は誰が誰に対して言っている言葉になるのでしょうか。軽井沢町が町民に対して発している言葉なのか、それとも軽井沢未来構想会議が軽井沢町に言っている言葉なのでしょうか。

中村委員長：

後者だと思います。ここでの文章は、軽井沢未来構想会議での見解として捉えています。違和感があれば変更する事もできますが、如何でしょうか。

軽井沢町（副町長）：

町が軽井沢未来構想会議から提案を受け取る事に問題はないのですが、軽井沢町から町民に示す際は、どういう形となるのでしょうか。

中村委員長：

軽井沢町が町民に提案する形の方が良ければ、ご指摘頂いた「ゲートミュージアムを設置してはどうでしょう」という言葉の締め方は避けた方が良いかと思います。「ゲートミュージアムを提案しました。」で如何でしょうか。

藤巻委員：

「ゲートミュージアムを設置してまいります。」と言い切っても良いかもしれません。

中村委員長：

①の文章の締めくくりは「ステーションフロントを創出します。」という表現としおりますので、簡潔に「ゲートミュージアムを設置します。」で良いのではないのでしょうか。

横島委員：

その表現ですと、縛りが厳しくなると思いますが、如何でしょうか。現案は曖昧な表現ですが、誰かが誰かには、其々のパターンで解釈して頂く表現が良いと思います。解説版の方は、基本的には提案型の表現としています。

藤巻委員：

答えではなく「一緒に考えていきましょう。」問題提起という考え方ですね。

軽井沢町（依田課長）：

資料3頁で「ランドデザインは答えではなく問題提起」という言葉が出てきています。断定的な言い方にしてしまうと町がやるべき事になってしまいますので、現案通りが良いと思います。「配置してはどうでしょう。」という言葉であれば、町が町民に向かって訴えているという考え方でも良いと思います。

横島委員：

未来構想会議から町、未来構想会議から町民、町から町民等の様々な受け方のスタイルが入ったトータルな「提案型」として仕切らなければ、全体が成り立たなくなります。100年後の未来構想として出来る事と出来ない事を拘らず議論してきた内容を文章にするならば、こうならざるを得ないと思います。

中村委員長：

それでは、現案通りで進めさせていただきます。

中村委員長：

それでは、次の「中軽井沢地区」に移ります。

軽井沢町（依田課長）：

②のスケッチは県道ではありません。県道は、国道 11 号からくつかけテラスまでの間の道路です。

事務局（小野寺氏）：

②のタイトル「県道の刷新」が間違っています。また道路ではなく街並みの刷新となりますので、併せてタイトルを修正したいと思います。

軽井沢町（依田課長）：

「県道の刷新」ではなく「くつかけ街並みの」という表現をお願いします。

事務局（小野寺氏）：

③は、どの様な手法で実施するかはさて置き、街並みを刷新するというよりは、今あるせせらぎを街区の中に取り込み、町中に水が巡っている事が分かり易くする画としています。着色はこれからですが、建物はグレー系の屋根に木造ベースのシックな街並みとして表現する予定です。

中村委員長：

将来の街並みモデルとしては、②の様な表現でよろしいでしょうか。

軽井沢町（依田課長）：

この画を基にして住民に協力してもらえる様な、住民や町民に対してのアピール性が重要と考えています。そのコンセプト性はどう表現されるのか、まだ疑問は残っています。

中村委員長：

その宿題は、私もかなり意識して取り組んでおりますが、そう簡単な課題ではありません。今回の冊子はこの様な形でまとめますが、プラスアルファが必要という議論であれば、最終的な報告書内にももう少し追記する手もあるかと思えます。事務局としてどうでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

②の内容をもう少し説明します。素材は木造または塗り壁（漆喰）、そこに格子を加える形態を考えています。また、建物だけでなく外構として、生垣や植栽（壁づたいの緑）等を用い、緑と一体となった街並みを表現する予定です。併せて、所々で建物をセットバックさせ、人を迎え入れる場所をつくる提案も入れる予定です。

中村委員長：

この 1 枚のスケッチで表現する事は難しいと思います。最終報告書にプラスアルファの情報が提示できるのであれば、透視図ではなく街並みの立面図で表現の方が分かり易いのではないかと考えています。

事務局（小野寺氏）：

街並みの参考資料は、ある程度整理する必要があると考えています。

安島委員：

中軽井沢は、「第 1 テーマの高原保養都市とは全く別の顔の地方都市の中心街、コンパクトシティ」と記載されている様に、生活拠点としての位置づけが強調されていると思いますが、商店街整備のみだけで良いのでしょうか。

藤巻委員：

現在、中軽井沢は観光客が集まるような仕掛けや施設がありません。この様な状況から、むしろ地元住民や別荘の方を対象としたまちづくりを考えています。新軽井沢や旧軽井沢との差別化もできると考

えています。その結果、良い店舗が立地してくれば、観光客も足を向ける方向に進んでいくのではないかと考えています。

安島委員：

星野エリア、千ヶ滝の生活を支える場でもあります。別荘地に対しての言及が全くないので、住民の方だけの提案に見えてしまっています。

藤巻委員：

中軽井沢エリアは、生活者ゾーンとしての拠点性ではありますが、勿論、別荘ライフも生活者として捉えて考えております。

安島委員：

文化的な方（別荘地）への対応も必要かと思えます。高原保養都市とは全く別の顔の地方都市のコンパクトシティと謳っておりますが、現案のままでは、普通の地方都市のコンパクトシティで実施されているような商店街整備にしか見えません。

中村委員長：

ここでの文章は、これまでの軽井沢の別荘中心から駅前商店街の方達にスポットをあてる事について強調しております。しかし、別荘の方達への利用や活用も忘れてはなりません。その事については、文章中で表現する事は可能かと思えますが、スケッチの中で表現する事は難しいと思えます。

安島委員：

文章中にニュアンスを表現して頂ければと思います。

浅野委員：

③のタイトルは「駅前商店街」が良いのでしょうか。商店街とは言えない気がします。住宅地とも関連している事を考えると「駅周辺街区の拠点」等が良いのではないのでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

「駅周辺街区の活性化」というタイトルで如何でしょうか。

浅野委員：

そのタイトルの方が良いと思えます。

花里委員：

住みたくなる街区になればと思っておりますが、住商混合で考えているのでしょうか。

事務局（二井先生）：

住宅と商店が入れ子になる様なイメージで考えています。この街区は、大通りから一本内に入った場所に若い方が経営している店舗があるという特長を持っています。ですので、必ずしも中山道沿いの様に線的に張り付いた商店街ではないやり方があるのではないかと考えています。

中村委員長：

先程の安島先生の意見については如何でしょうか。例えば、左側文章の2段落目「住民の4分の1が集中する中軽井沢エリアは生活者ゾーンとしての拠点性が顕著であり、他のエリアとは異なる生き残りの手法を探る必要がでてきます」という文章がありますが、「生活者ゾーン」という言葉の前に「別荘者と共存する」という言葉を追記してはどうかと思うのですが、如何でしょうか。

横島委員：

事実関係を追えばその通りですが、地域の特性を論ずるエリアデザイン論の中で、そこまで精密に書

く必要があるのでしょうか。特長をピックアップする事が文章の要約の目的ですので、そこまで配慮しなくても良いのではないかと思います。地域特性としては間違っていないと思います。それが矛盾しているのなら別ですが、包含不足でないならば、現文章で問題ないと思います。

安島委員：

中軽井沢が生き残る戦略として、背景にある別荘や別荘民、その方達が持っている別荘文化と共存して活性化させる方が良いのではないのでしょうか。

横島委員：

その考え方は、中軽井沢だけでなく、軽井沢町全体に言える事だと思います。別荘との協調でしか生き残れないと言う事は、ある種の全体論だと思います。中軽井沢のその全体論の中に押し込む事なのか、そうではない視点で生き残るのかについては検討しました。中軽井沢を生活者拠点ゾーンとしてのコンパクトシティモデル地域にする事は、町長の政策趣旨でもあります。そこを浮き上がらせるためにも、この様な表現をとっています。別荘との関係を遮断するという意図は全くございません。

安島委員：

「誰が利用するのか？」という事で言えば、背後にある別荘の方達も入ると思います。その方達の利用に耐える様なセンスのある店舗が入る事で活性化するのではないかと思います。

横島委員：

別荘者を無視した様な軽井沢の地域は成立しません。中軽井沢では、生活者である地元住民のためにも、自らの生活地域の充実を図る事を注目してはどうかという提案です。

別荘者に配慮していない訳ではありません。全体のトーンの中なかで、中軽井沢は住民を中心として考えています。風土自治論には、別荘からの独立心を養うための論が必要だと考えています。住民は別荘が無くても生きていけるという位の気概を持たなければ、エリア毎の独自性は保てませんし、軽井沢全体の繁栄も期待できないと思っています。この様な趣旨である事をご理解頂ければと思います。

安島委員：

趣旨は理解しました。承知しました。

森山委員：

編集の細かい点の指摘となりますが、右側の文章（キャプション）は、インデント（頭1字下げ）をする必要はありません。不用意に頭1字が下がっていると、汚く見えます。

中村委員長：

キャプションはインデントなしで進めさせていただきます。

③の駅周辺街区の活性化のスケッチですが、着色する際には、水（せせらぎ）を強調する様にお願いいたします。

中村委員長：

それでは、次の南地区に進ませていただきます。南地区は発地と風越の二つに分かれているため、描きにくい場所となっておりますが、重要な場所となりますのでご覧頂き、ご意見をお願いします。

右側のスケッチの配置ですが、実際場所との関係性から見て、②と③のスケッチを反対にした方が分かり易いと思います。

事務局（小野寺氏）：

上下ですね。承知しました。

中村委員長：

この地区でのキーワードは、「風越スポーツパーク」と「発地里山パーク」になりますが、模型図やスケッチのキャプション等には言葉が出てきていません。これについては如何でしょうか。言葉を入れた方が効果あると思います。

事務局（小野寺氏）：

そうですね。言葉の入れ込みについては検討いたします。

軽井沢町（副町長）：

発地市庭の右側は野球場でしょうか。

事務局（小野寺氏）：

古い模型図を入れておりました。野球場はサッカー場の改修と併せて集約しています。発地市庭の右横の野球場はデジタル上で削除しておきます。

軽井沢町（副町長）：

模型図上の「サッカー場（改修）」はサッカーでも野球でも利用できる「グラウンド」という名称に変更可能でしょうか。

事務局（小野寺氏）：

承知しました。修正します。

事務局（二井先生）：

現状としてスケッチの縦横比のサイズを合せる事は難しい事なのでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

アングルの関係上、意外に難しいです。

浅野委員：

模型図上の「軽井沢風越公園総合体育館」も既存施設です。

中村委員長：

もう1点、模型図上に施設名と植物名が混在しているので、植物名を平仮名表記でフォントを変える等をして、見やすくする工夫をお願いします。併せて、桜と紅葉に色を加えて、表情に変化を出して欲しいと思います。

事務局（小野寺氏）：

承知しました。検討、修正いたします。1点、模型図上では桜（春）と紅葉（秋）を一緒に表現していますが、それについては問題ないでしょうか。

横島委員：

問題ありません。

中村委員長：

③休耕田の活用ですが、「バードウォッチング」が重要なキーワードとなります。出来れば、スケッチ上に鳥を描いてくれませんか。イマイさんの画は空に鳥を描いています。

軽井沢町（依田課長）：

シロサギ、アオサギ等で外来鳥ではない種類をお願いします。

中村委員長：

シロサギやアオサギの他に、ツバメ等の鳥も飛ばして欲しいと思います。加えて、バードウォッチングをしている人が描ければなお良いと思います。

事務局（小野寺氏）：

承知しました。

森山委員：

地区の順番が本編と解説版で違うようですので、統一した方が良いと思います。順番は、位置的なのか、それとも重要度で決めているのでしょうか。

事務局（小野寺氏）：

本編は、新軽井沢、旧軽井沢、中軽井沢、南、追分地区の順番となっておりますが、解説版は、追分と南地区が逆になっています。

横島委員：

解説版の順番として下さい。

森山委員：

表紙を見ますと、地区のテーマカラーである旧軽井沢の紺色と追分の紫色の差が状況です。もう少し色に差をつけた方が良いと思います。紫色から青を抜いて、紺色は青らしい明るい色にする方が良いと思います。

事務局（小野寺氏）：

承知しました。修正いたします。

中村委員長：

それでは、次の追分地区に進ませていただきます。

藤巻委員：

修正点ですが、模型図上の「堀辰雄文学記念館」の位置が間違っております。その場所は「追分公民館」となります。

事務局（二井先生）：

新設した駐車場についての表記は必要ないでしょうか。追分は他の地区よりの圧倒的に変化が分かり難い地区になっていると思います。

事務局（小野寺氏）：

追分公民館と国道沿いに新設した駐車場を表記しましょうか。

事務局（二井先生）：

その方が良いと思います。

森山委員：

タイトルの「寂びる」という言葉は、否定的に捉えられるのではないかと思います。「熟す」等の言葉の方が良いと思います。

中村委員長：

追分地区は「寂しい」事が良いと思っています。

森山委員：

想いは理解しているのですが、「寂びる」は「滅びる」に近い言葉です。

浅野委員：

町民の方々が「寂びていく」という言葉をどう捉えるのかだと思いますが、なかなか難しい言葉だと思います。

中村委員長：

承知しました。もう一度検討したいと思います。

浅野委員：

「熟す」の方が、新しい軽井沢の文化が生まれている地区だと感じます。

横島委員：

「ゆっくりと蘇るまち」は如何でしょうか。一旦は低迷した状況から回復してきた地区ですので「蘇る」の方が良いかと思えます。これは重要な変更になります。この言葉は「軽井沢 100 年グランドデザイン」の 20 景の中にも入っています。

花里委員：

左側の文章に「ルネッサンス事業に向けて、民間資本の導入と行政からの支援が合体したまちづくり会社の設立が期待されています。」と記載がありますので、これについて具体的に描ければ面白くなるのではないかと思います。

横島委員：

この内容は、具体的には「油屋プロジェクト」を想定しています。具体的には書けない事柄ですので、抽象的に表現しています。一番の最善策かどうかは分かりませんが、現在ある「油屋プロジェクト」に支援を行い、「油屋」をまちづくりのコアグループにしたいという理想は持っています。都合が悪い事がございましたら、対応したいと思います。例えば、どの様な記述にすると面白くなるかお教え頂ければ有難いです。

花里委員：

「油屋」は、ギャラリーやレストラン、宿等を経営していますので、それを具体的に記載してはどうかと思ったのですが、如何でしょうか。

横島委員：

「油屋プロジェクト」という固有名詞を入れてしまうと、特別支援を記載している事になりかねません。逆の反発がでる可能性があるので、危険な要素は排除した方が良く考えています。面白く書くか、無難に書くかの問題ではなく、正確に堅い所を狙っています。

事務局（小野寺氏）：

模型図上の番号と矢印の位置については、間違っておりますので、修正いたします。

花里委員：

全体の話となりますが、別荘地の保全という事だけではなく、併せて古い別荘の保全や良い建築に対する顕彰等を設置する提案を入れてはどうかと思いました。

中村委員長：

その内容を入れるとするならば、どこが良いでしょうか。

花里委員：

旧軽井沢地区の③のキャプションの最後に、「特別に価値のある別荘に関しては、町の方が住民の方の誇りになる形で顕彰を行います。」と入れるのは如何でしょうか。

藤巻委員：

それは、「ブルー・プラーク」の様な事でしょうか。面的な保存は「重要景観地区の指定」等の計画になると思いますが、その事は記載せずに、「ブルー・プラーク」の事だけを明示する事は如何なものかと思えます。

花里委員：

面的整備の前に、「ブルー・プラーク」を実施する方が、町民の気持ちが高まるのではないかと思います。

藤巻委員：

「別荘地の保全」の中に包含している事として捉え、具体的に提示しない方が良いと思います。「ブルー・プラーク」のみを入れ込むと、現在、教育委員会で取り組んでいる文化庁の指定や有形登録文化財を増やしていく取り組みについても入れる必要が出てきます。

花里委員：

住んでいる方の誇りを高めていく手法としては有効だと思います。

藤巻委員：

全てを一纏めにして検討を行い、しっかりと整理が出来た段階で、具体的に提示できれば良いと考えます。

中村委員長：

それでは、最終頁に移らせていただきます。ここでは、サイクリングネットワークやホーストレッキング等の未来交通について概略図を載せて表現しています。

軽井沢町（依田課長）：

概略図内の「ハルニレテラス」は民間施設なので、入れない方が良いと思います。また、「風越スポーツパーク」と「軽井沢発地市庭」が直接線で繋がっていない点が気になりました。セットで描いている地区なので、繋がっていた方が良いと思います。

中村委員長：

「発地里山パーク」がどの範囲かと示す事は難しい。中心となる施設は、発地市庭や植物園になるかだと思います。「発地里山パーク」は点ではないと思います。

浅野委員：

エリアデザインの頁から唐突にこの未来交通の頁に入っているため、繋がりが分かり難い。エリアデザインを実現させる「未来の交通」という位置づけにすれば、エリアデザインからの流れを受け取れる表現になるのではないのでしょうか。また、概念図内には、具体的な名称は入れるのではなく、エリアを落としては如何でしょうか。

中村委員長：

それは良い考え方だと思います。その方が分かり易い概念図になると思います。

浅野委員：

加えて右側のタイトルにも「5つのエリアを繋ぐ～」等の言葉を追記して頂ければ、より分かり易くなると思います。

中村委員長：

内容が混乱しない様に図の表現については、もう少し工夫をお願いします。

横島委員：

エリアを入れ込むのであれば、具体的な名称は全て無くても、概念として成立すると思います。

中村委員長：

使用している写真のシルエットが弱い気がします。色を濃くする等の調整をお願いします。

軽井沢町（副町長）：

観光課にもう少し良い写真があるのではないのでしょうか。

軽井沢町（依田課長）：

資料は提供できるようにします。概念図のエリアは、はっきりとした境界を持っていない状況なので、エリアをぼかす等、表現方法は工夫して頂ければと思います。

中村委員長：

最後のまとめ図として、ご意見の内容を補強して整理して下さい。

事務局（二井先生）：

右側の委員名簿ですが、並び順はあいうえお順に修正させて頂きますが、所属の表記についてもご確認頂き、ご意見をお伺できればと思います。

中村委員長：

名誉教授の場合は、学部表記は必要ないと思います。それでは事務局の方で各先生に確認を取って下さい。

事務局（二井先生）：

それでは、学部レベルまで表記する形で統一させて頂く方向としたいと思います。

藤巻委員：

最後に1点よろしいでしょうか。冊子、用語解説を含めて、文章中の西暦と和暦の表記が混在しています。統一した方が良いと思います。

事務局（二井先生）：

基本的には日本の出来事に関しては和暦の方が分かり易いと思います。

安島先生：

これからの事を考えると西暦の方が良いと思います。

森山先生：

同感です。西暦を基本として、必要に応じて和暦を入れる方が良いと思います。

事務局（二井先生）：

承知しました。

中村委員長：

長い間、有難うございました。本日の意見を取りまとめ、22日に最終チェックを事務局の方で進め、仕上げる段取りで進めさせていただきます。

本日は有難うございました。

(以上)

